

数すっきりめがね

活動場所：2年1組教室

6月4日（火）13：55：～15：00

提案者：笠井 将人

1 本時にかかわる子どもの姿

既習の考え方を使得って日常の事象を見ていく中で、数理的な見方がひろがっている。これまでも様々な活動の中で、日常の場面を数に表して考えてきた。「長さ比べ」では、1cmという長さを知った子どもは、30cmの竹尺を用いながら、「いろいろな長さを測ってみたい」と考え、身の回りの事象の長さを測り、長さを数に表していった。その中で、より長い長さを知りたいと願った子どもは、友だちと30cmの竹尺をつなぎ合わせて、黒板の長さや自分の机の高さなどを数に表してきた。出てきた数が大きくなりすぎて数の処理が困難になってきたところで、1cmが100個集まると1mであるということを知った。1mという長さを知ることで、自分の身長とつなげて考えるなど、身の回りでもまとまりで見る考え方が用いられていることに気付いた。日常の事象を数に表していくなかで、まとまりで見る考え方をさらにひろげていく。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

数多くある一円玉の数を数えることを通して、10や100のまとまりをつくったり、仲間と一円玉の数を数えたりしながら、数をまとまりで見ることについて自分の考えをつくる。

3 本時の構想

○ 数を様々なまとまりにして見る

今まで出合ったことのないくらい数多くある一円玉と出合った子どもは、一円玉が全部で何枚あるのか机にひろがった一円玉の散らばっている様子を見たり、手に取ったりしながら予想を立てていく。これまでの経験から、2ずつ、5ずつのまとまりをつくりながら、一円玉を数えていくが、数が多いために、どれだけ数えたか分からなくなってくる。そこで、数えた一円玉をさらに大きな数のまとまりとして見ていくことを考えていく。10ずつまとまりをつくったり、100ずつまとまりをつくったりしながら、数をまとまりとして見ることについての自分の考えをつくっていく。

4 本時の展開

1・2M/全12M（65分）

時間	番号；子どもの活動・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	1 数多くある一円玉と出合う。 ・こんなにたくさんの一円玉は出合ったことがない。 ・一円玉は全部で何枚あるのだろう。	○1000枚以上の一円玉を用意する。
40	2 一円玉の数を数える。 ・2ずつや5ずつにしながら、一円玉を数える。 ・数が分からなくなったから、10のまとまりをつくっていくとよいのではないだろうか。 ・10のまとまりを、隣の人と合わせると、さらに100のまとまりをつくることができる。 ・10のまとまりを10個で100のまとまりができるし、100のまとまりが10個集まると1000になる。	○数える中で、出てきたやり方を紹介し合い、まとまりをつくって考えている意見を取り上げ、数をまとまりで見ていくことに気付かせる。 ○必要に応じて、近くの子ども同士で交流する時間を設ける。
15	3 今日の数すっきりめがねについて考えたことについてノートに書く。 ・数を10や100のまとまりにして考えると、大きな数でもぱっと見ただけで分かる。 ・まとまりがさらに10こ集まるともうひとつ大きなまとまりがつかることができる。	○書いたことについて、数名の意見を紹介し、まとまりとして見ることについて考えを深める。